

平成29年5月29日

平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業「プロジェクトスクール@3331」の実施

文化庁では、2020年に向けた取組の一環として、全国に文化芸術プログラムを作り出すプロジェクトリーダー育成事業（プロジェクトスクール）を実施します。この度、受講生を募集しましたので、お知らせ致します。

記

1. 事業名

プロジェクトスクール@3331

2. 趣旨・目的

地域特性を生かした魅力ある文化プロジェクトの企画及び実施に欠かせないプロデュース力、ディレクション力、コーディネート力、マネジメント力等を備えた文化芸術プロデューサー的人材育成を目指します。

3. 委託業者名

一般社団法人非営利芸術活動団体コマンドN

4. スケジュール（予定）

募集期間：2017年5月29日（月）～7月9日（日）

※6月15日・17日・24日・25日事前講習会実施

審査選考：【書類】2017年7月15日（土）、【面接】7月16日（日）

選考結果：2017年7月18日（火）

入学式：2017年7月31日（月）

5. 受講生の募集について

別紙参照

6. ホームページ

<http://projectschool.jp/>

【担当】

文化庁長官官房政策課文化プログラム推進室

担当：高田、堀口、杉村

電話：03-5253-4111（代）（内線3108）

FAX：03-6734-3811

遠山正道 株式会社スマイルズ 代表取締役社長



「文化芸術プロデューサー」良い響き。でも、ちょっと漠としているかな。われわれスマイルズは「妄想と実業が得意です」なんて言っている。文化芸術に二本の足を生やして、どっしり両足で立つ。大股でこちらに向かっていく。泣いたり笑ったり踊ったり。たまには小走りに逃げきったり。そんな言葉がくっつくといいかな。そんな人に私もなりたい。そんな人と友達になりたい。

日比野克彦 アーティスト / 東京藝術大学教授



私という個人がいて私以外の他者がいて、関係性の中から制作の動機が生まれ、私的な行為に対して他者から共感のようなものが生まれていく先にプロジェクトに変容していく方向性が現れ、その際に選択肢としてプロジェクトにしないということも…。私の場合、最初からプロジェクトという形から始めるということは少なく、どこかで個人での制作が根本にあるという意識があります。

太下義之 芸術文化政策センター 主席研究員 / センター長



2020年のオリンピックへ向けて合計20万件もの文化プログラムが行われることになり、これらのプログラムは東京だけでなく日本全国で実施されることになります。これらの担い手となる文化芸術のプロデューサーやアートマネジャーが必要とされています。本プロジェクトスクールにおける「学び」を、こうした日本全国での新たなチャレンジに繋げていきたいと考えています。

中島直人 東京大学准教授



長期的ビジョンやプラン、その実現のための制度や組織は大事である。しかしそれらは変革そのものを直接生み出すことができない。変革を生み出すひとりひとりの人間が、具体のプロジェクトを仕掛け、その手ごたえを確かめながら、軌道修正し未来へ進んでいく。そのようなことに関わる人材の最も基本にあるのは都市やまちの微細や機微を観取し、その可能性を信頼する力であろうか。

嶋田洋平 らいおん建築事務所代表取締役



自分の身近な暮らしの中で感じる小さな違和感をきっかけにして、それがより大きな地域や社会の課題につながっていることを捉えられた時にプロジェクトがスタートします。プロジェクトをゼロから作り出し、ビジネスとして成立させ継続させることで、それが自分と自分の周りの人の仕事になり、お金を稼ぎながら地域や社会を変えていく。その方法を一緒に考えてみましょう！

桶田大介 弁護士



本スクールの掲げる「プロジェクト」は、複数の企業や団体や人々を「つなぐ」ものとされている。法律や契約は「つながり」を整理して社会的に位置づけ、その成果を糧に新たな創造を行うための手段だ。プロジェクトを立上げ実行し、その成果を実のものとしていく「つながり」を実現するには？ 法律や契約に関する「視点」や「気づき」のヒントをお伝えできればと思います。

岩間賢 美術家



此の地を開拓してきた先人がこの時代にもいる。受講生には、その一歩前を歩いていくことを己の意志とし、踏みとどまることの潔さを学び、革新していく未来をつくる力を手に入れてほしい。プロジェクト・スクールでは、特に創力・想力・忍力・体力・愛力を鍛え、表層と深層から自己力を探索していくことを要としたい。

鈴木康広 アーティスト



「なぜこんなことをやろうと思ったのですか？」と真顔で聞かれて困ることがあります。プロジェクトとは企画者にとっても思いがけないもの。身近な人に伝えたくなる小さな発見が、多くの人を巻き込むプロジェクトへと発展しました。「目的」ではない起点がどこかにあるような気がしています。

中村政人 アーティスト / プロジェクトスクールディレクター



何かを始めようとするとき与えられた事から始めるばかりでは、依存する状況から逃れられない。予算がないからできないではなく、予算をつくることから始める。環境がないからできないのではなく、その環境をつくることから始めればやれることが自ずと見えってくる。ゼロから始める覚悟を持ち自分を切り開く！ 社会を変える！ そんな情熱的な人を期待します。

山崎亮 コミュニティ・デザイナー



徳島県神山町や神奈川県藤野地域など、興味深い地域づくりが進むエリアには初期段階でアーティストが関わっている。そして、こうしたプロジェクトが大きく進展する際には、アーティストと地域の住民や産業がうまく協働している。今回の講座は、アートとコミュニティと産業のうまい協働について実践的に学ぶことができる場になるだろう。

藤浩志 美術家



作品を作ろうとするのではなくプロジェクトを作ることが大切だと思っています。普段抱えてしまう些細な違和感や興味関心に向き合うためプロジェクトの実践を試みることで、自分の知らない新しい世界が広がります。家庭内のささやかなものから社会を変革するものまで大小様々なありえないプロジェクトを一緒につくります。そして期待に向かうその時間を楽しみましょう。

清水義次 都市・地域再生プロデューサー



しっかりした眼で都市を観察し、課題と原因を把握する。その中で文化や芸術はどんな役割を果たせるのだろうか。眠っている地域資源を組み合わせ、課題解決するプロセスを作り出していく。独りよがりではダメ。そのまちで生活している人たちに敬意を払い地元に溶け込んで、動きながら考えて行くこと。温かい心と志、そしてソロバンを併せ持つリーダーが生まれることを期待する。

山内真理 公認会計士 / 税理士



プロジェクトを仕掛け、育むということは様々な関係性の中で責任を引き受けるという事でもある。優れたイノベーターがいればインパクトが生まれるか？ 答えは否です。会計はプロジェクトの経済的アーカイブを提供し、課題を可視化し、未来への地図を具現化するものです。プロジェクトを推進する道具としての会計の使い方、プロジェクトを取り巻く各種制度について考察します。

鹿野順一 特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンター



人生において無駄に思える悩み立ち止まる時間は、本当はとても有益な時間だと思います。そういう経験を重ねる中で、自分自身の見通しも立てられるのではないのでしょうか。自分の役割の選択肢をたくさん持つこと。現場の状況に応じて何にでもなれる自分を忘れない人が、本当のリーダーになっていくのかもしれない。

馬場正尊 OpenA代表 / 建築家



プロジェクトを立ち上げるとき僕が工夫していることは、まずゴールイメージをビジュアルで共有、メンバーで理想の風景と一緒に描けるようにし、一人ひとりの役割や立ち位置を明快にし、参加する個人のモチベーションの根元を把握し、理解し合い尊敬し合うこと。目的や規模、分野によってプロジェクトの形は様々だが、ベースとなる価値観は上記によって醸成されると考えている。

武田昌大 Share Village Project 村長



街には価値がたくさん眠っています。その価値を見出して、コンセプトからアイデアを生み出し、プロジェクトへと育てていく人材が今街づくりに必要とされています。私は「人がときめく仕組みづくり」をテーマに街づくりを行っています。皆さんのワクワクするような企画が楽しみです。

池田晶紀 写真家



写真の授業を担当させていただきます。「いい写真」って、どういうことなんだろう？ 「伝わる写真」って、どう考えればいいのだろうか？ そういった実用的なこと実践する時間をつくります。写真が苦手！ という問題解決を目指します。

森司



東京アートポイント計画ディレクター
TURNプロジェクトディレクター (予定)
アートプロジェクトのやり方を学びたい方は応募必須です。企画を立て実施するには、知識と経験が必要です。それらを媒介するのが「言葉」です。アートプロジェクトを企画、実施、展開、記録、するために「言葉」を使います。チームで学び「言葉」を体得し、実践を通じて会得する学びの場として、タフなプログラム構成のPSは最適でしょう。私も「言葉」を用意して講義に臨みます。

平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業

「プロジェクトスクール@3331」
プロジェクトコース応募要項

開校期間

2017年7月31日(月)～2018年3月2日(金)

開校日時

平日(月～金)19:00 - 21:00
(夏期休暇:8/11-16、冬期休暇:12/28-1/3)

募集締切

2017年7月9日(日)*24:00必着

募集定員

約20名※
※審査により選考された方がプロジェクトスクールを受講できます。

入学金

7万円※
※但し、スクール生の皆様から納められた「入学金」は、スクール生によるプロジェクト実施費用に全額充当されます。選考
スケジュール

1. 応募申込み(メール送付のみでの受付)
 2. 1次審査(書類選考)
 3. 2次審査(面接審査)*7月16日(日)※
 4. 受講者決定*7月18日(火)※
- ※2次審査受験者全員にメールにて2次審査の結果を通知します。

応募要件

- 1) 本スクールのコンセプトに賛同し、カリキュラムに積極的に参加し、プロジェクトを自主的に進める意思があること。
- 2) 受講期間中に実施される、地方への調査・取材等に参加すること。

—— 受講生に受講期間中、求められるもの ——

実施するプロジェクトによっては、1日の大半の時間を費やして、企画準備・実施にあてなければならない場合もあります。それらに各人ができる限り参加し、意欲的に取り組むことを望みます。また在職中・就学中の方は、自身でスケジュールを調整していただき、プロジェクトにおける役割を分担しリキキュラムへ参加、プロジェクトの実施にあたっていただきます。

【応募方法】

履歴書、職務経歴書、これまでの活動資料、企画提案書をPDF形式にデータを変換して、下記応募先のメールアドレスまでお送りください。

詳細はウェブサイト(projectschool.jp)をご覧ください

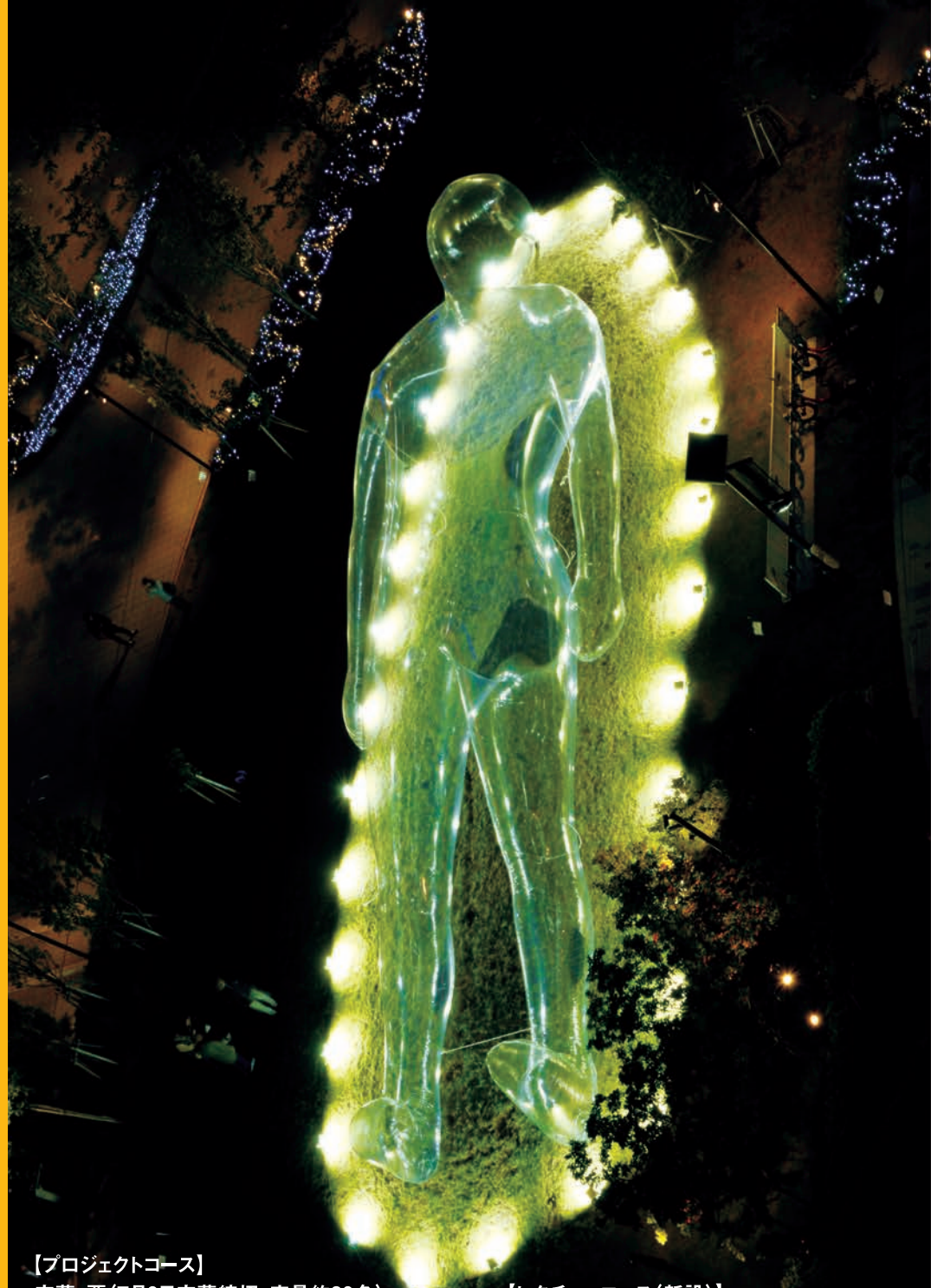
【レクチャーコース(新設)】

各講師によるレクチャーの講義聴講のみの参加も受け付けます。
申込方法: 事前申込制(事務局宛メールにて受付)
参加料: 一般3,500円/回、学生2,500円/回 計13回(予定)
定員: 10名/回(各回定員になり次第締切)
※各日程は確定次第公開いたします。

【主催】
文化庁
(一社)コマンドN

【応募先・お問い合わせ先】
(一社)コマンドN
〒101-0021
東京都千代田区神田錦町2-1
info@projectschool.jp

平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業

「プロジェクトスクール@3331」
応募要項

【プロジェクトコース】

応募: 要(7月9日応募締切: 定員約20名)
入学金: 7万円
2017年7月31日(月) - 2018年3月2日(金)
平日(月～金)19:00 - 21:00でカリキュラムを実施
開校期間中随時実施(計13回程度)

【レクチャーコース(新設)】

応募: 不要(開催日前日までに申込: 定員10名)
参加料: 3,500円(一般) 2,500円(学生)
開校期間中随時実施(計13回程度)

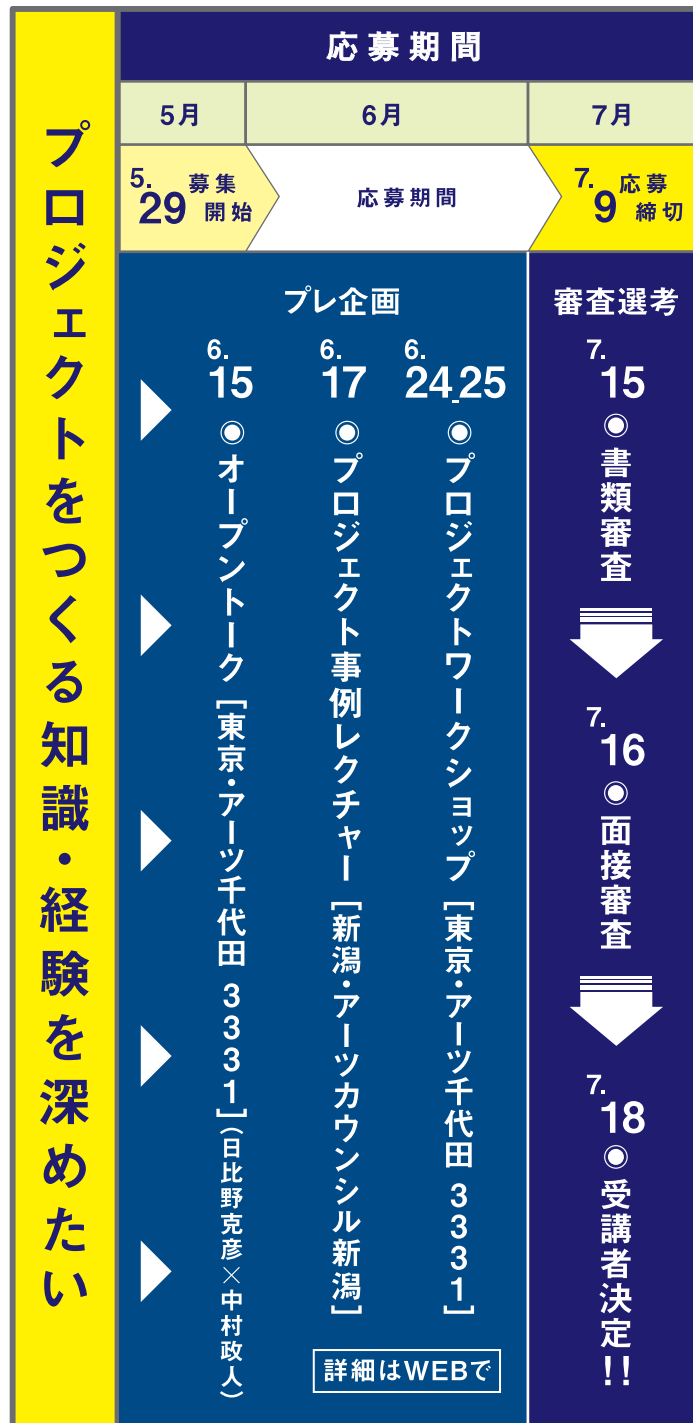
鈴木康広(大きな空気の人) 東京 淡路公園/TRANS ARTS TOKYO 2015

Project
School
@3331

projectschool.jp

平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業「プロジェクトスクール@3331」第2期生募集!!

プロジェクト
の現場に
飛び出そう!



自分で一からプロジェクトをつくりたい人。
NPOや会社でプロジェクトを始めたい人。
企業でCSRプロジェクトを企画したい人。
既存のプロジェクトを改革・拡張したい人。
都市と地方プロジェクトでつながりたい人。
プロジェクトで街を再生したい人。
社会課題解決プロジェクトを実践したい人。
プロジェクト化した作品を発表したい人。

プロジェクトスクール@3331は、縦割り社会に横串をさすアクティブなリーダー育成を目指します。
先鋭なリサーチ力、文脈を読み解く批判力、柔軟で独創的な発想力、時代を牽引する構想力、難問を突破する計画力、最後まであきらめない実行力、事業を継続する資金調達力、どんな人ともつながるネットワーク力など、プロジェクトを実現し継続するための力を実践的に身につけます。

プロジェクトを創造しなければ、表現できない作品。
プロジェクトを設計しなければ、生産できない商品。
プロジェクトを協働しなければ、実現できない地域プログラム。
プロジェクトをつくることで、自分を成長させ社会に新しい価値観を生み出していきます。
プロジェクトスクールの卒業生は、時代を革新するプロジェクトを発案し実現します。そこで、今までにない職業意識を生み出し新たな仕事の現場を創出します。

中村政人
プロジェクトスクール@3331 ディレクター

「文化×産業×コミュニティ」を領域横断する新たなプロジェクトリーダー

都市・地域・再生プロデューサー／文化芸術コンサルタント／イベントオーガナイザー／社会活動家……
ソーシャルイノベーター／ソーシャルアーキテクト／プロジェクトデザイナー／プログラムディレクター……
コミュニティデザイナー／プロジェクトアーティスト／アートプロデューサー／ディレクター……